

アフリカにおけるリープフロッグの展望

—その本質と課題について—(要旨)

アフリカは、「経済的にも技術的にも遅れた地域」という認識が一般的である。しかしながら、アフリカの一部地域では、ICTを用いた農業やドローンによる血液輸送など最新技術を用いた独特のビジネスが行われている。こうした現象は「リープフロッグ」と呼ばれ、アフリカの市場価値の高まりに伴って注目を集めている。一方でリープフロッグという言葉が指し示す事象は、従来、経済発展段階論の文脈で用いられていたため、論者によってその意味する事象が異なっており、明確に分類・整理がなされていない。加えて、先行研究の多くは企業や現状についての分析や報告が大半であり、リープフロッグをアフリカ経済史の視点から考察し、アフリカの持続的成長にどのような影響をもたらすのか評価・考察がなされていないという研究上の課題も存在する。

本論文では、リープフロッグという言葉をもとに、経済発展段階に着目したもの(経済発展段階におけるリープフロッグ)と技術進展段階に着目したもの(技術進展におけるリープフロッグ)に分類し、経済発展段階におけるリープフロッグをさらに、工業化過程におけるものと産業構造におけるものに分類し、それぞれを定義した。そのうえで、歴史的に社会保障や社会サービスなどの社会基盤が整備されてこなかったアフリカでは、公的部門ではなく民間のインフォーマル部門が社会基盤を補う構図が出来上がっており、インフォーマル部門とICTなどの最新技術及び海外からの投資が結びつき、社会基盤の不足を最新技術で補うという特徴を持つリープフロッグが発展したことを明らかにした。そして、このリープフロッグがアフリカの持続的成長に寄与するかを、インドとナイジェリアを比較して検討した結果、雇用創出・人材育成及び産業自体の持続可能性という点で持続的成長には不適であるといえるものの、社会基盤整備のための手段としては、優れた性質を持ち合わせているという結論に達した。

以上のように本論文は、アフリカでみられるリープフロッグという現象全体を俯瞰し、課題と利点を明らかにしたものである。アフリカの持続的成長には、リープフロッグの優れた部分を活用しながら、製造業を主体とする工業化を進めることが求められるだろう。